岩手県社会福祉事業団　機関紙

みんなの広場

第 149 号
令和 8 年 2月 発行

※上の紺点は、題字と同じ内容を点字で表したものです。

主な内容

IGR 奥中山高原駅の清掃活動 …… P1
特集「今を彩る事業団のきら星」…… P2～3
施設だより …… P4～5
給食でオモイをつなぐ、チイキとミライ … P6
シリーズ 時の足跡～10 年を振り返って～… P7
かだあると、新採用職員紹介…… P8

「頑張った後の一杯（コーヒー）は最高だ！」

りんどうでは、毎年、地域貢献活動の一環として、IGR 奥中山高原駅の清掃活動を行っています。今年度は、一戸町にある NPO 法人多機能型事業所きらぼしの利用者さんと一緒に、清掃活動に取り組みました。（関連記事 P4）

特集

今を彩る事業団のきら星

～福祉の“イイナ”を“ミライ”に伝える～

岩手県社会福祉事業団に入職して1～4年目のスタッフによる座談会を開催しました。福祉の仕事の魅力ややりがい、今感じている思いを、これから福祉の仕事を目指す未来のスタッフにお届けします。

CROSSTALK MEMBER

菅原　優花
和光学園
児童指導員

大川　侑真
てしろもりの丘
よつば
児童指導員

及川ひより
好地荘
生活指導員

小山田　凜
かたくり
生活支援員

FACILITATOR

久慈　隆広
岩手県立療育
センター
障がい者支援部長

福祉の仕事を目指したきっかけ

菅　原：「子どもの居場所」に興味がありました。中学生の頃、別室登校をしている友達がいて、別室での楽しそうな姿に、「ここ(別室)は明るく安心して生活できる場所なんだ」と実感したことがきっかけです。

大　川：高校の先生に勧められて福祉系の大学に進学しました。特別養護老人ホームでの実習で、情熱を持って仕事をしている職員に出会って、影響を受けました。あと、友人が事業団の採用試験を受験すると知って、自分も受験してみようと思ったことがきっかけで、今の自分がいます。

及　川：保育士になりたいと思ったことがきっかけです。大学では児童を専門に学んでいたけれど、高齢者、障がい者、困窮者など福祉を広く学んだことで視野が広がりました。

小山田：祖父が介護施設にいて、自分の世話好きな性格もあって、祖父と関わる機会が多かったように思います。仕事を通して、高齢者への接し方を学んで、祖父孝行のようなことができればと。大学3年の時に、事業団のオンラインインターンに参加して、事業団で働きたいと思いました。

福祉の仕事の魅力・やりがい・自身の成長・変化

菅　原：子どもたちの成長を身近に感じられることが、魅力だと思います。

大　川：利用者さんや職員、どんな時も人と関わることです。どのように支援していくかをみんなで考えて、解決につなげることができた時、やりがいを感じます。

及　川：2年前に児童養護施設から救護施設へ異動になりました。利用者さんの年齢は違うけれど、成育歴を見ると、児童養護施設で育った方がいたり、つながる部分があって、利用者さんの人生に関わる大事な仕事であると感じるようになりました。「ありがとう」「がんばっているね」と声をかけてもらえることがやりがいにつながっています。

小山田：生活支援員として働いていると、食事の支援、服薬支援…、次のことで頭がいっぱいになるけれど、利用者さんとの何気ない会話や笑顔に救われています。かたくりは高齢の利用者さんが多いので、日々体調管理に気を配っています。その日の顔色や声のトーンなど、利用者さんの変化に気づけるようになったことが、自分の成長だと感じています。

久　慈：変化に気づくことは、全てにおいて大事なこと。皆さんの話から、日々の積み重ねを大事にしていることが感じられました。大切にしてほしい。

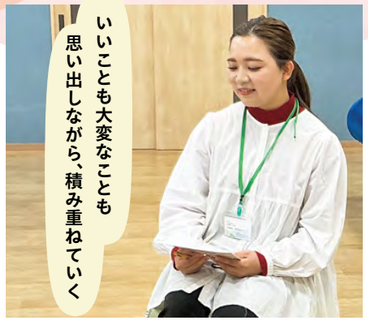
リアルな悩み

菅　原：勤務に慣れることだけで時間が過ぎてしまい、最初の半年は大変でした。

大　川：悩みというか反省点として、提出物が遅れてしまったことがありました。チームで仕事をしているので、業務の遅れにつながらないように、自分の仕事の進捗状況を周りの職員に周知することを意識したいと思います。

及　川：仕事とプライベートを切り離すことが苦手で、帰宅後もいろいろ考えてしまいます。

小山田：自分も仕事上の悩みを家に持ち帰ってしまうけれど、入浴や音楽を聴いたりして気分転換を図っています。



大　川：何も考えないことも大事だと思う。睡眠をとることもいいと思う。

菅　原：私も考えてしまうタイプだけれど、家には持ち込まないと決めて、気持ちを切り替えてから帰宅しています。

久　慈：出勤時にオンにするという切り替えや自分なりのルーティンは大事だよね。

小山田：利用者さんとのコミュニケーションの取り方に悩んでいます。頼まれると何でもやってしまう…。利用者さんの自立という視点で考えて、なぜ職員ができないかの理由を説明するようにしている。それでもやっぱり利用者さんが前向きな表情になっていないとつらい。3年目に向けての課題です。

久　慈：支援の方向性や一貫性が問われた時、何を根拠に支援しているのかを自分がしっかり説明できなければいけない。本人の理解を得ることはもちろん大切だけど、周りの職員に、同じように支援をするための説明をして、理解を得ることも大事なこと。

今の私を支える言葉、趣味、モットー

菅　原：好きなバンドのライブやフェスに行くことを原動力にしていて、自分へのご褒美が頑張りにつながっています。

大　川：革製品やデニムのエイジングなど、長く使えば味が出るものが好きです。採用時に購入した財布も味わいが出てきていて、自分も同じように味わいを出していきたい。

及　川：11月に休暇をいただき、リフレッシュすることができました。休暇中はしっかり休んで、その分、休んだ後は頑張ろうという気持ちをもっています。事業団の休暇制度を知って、自分から休暇を取りたいという意思を伝えられたことも良かったと思います。職場の理解を得ることができて感謝しています。

小山田：職場に尊敬できる先輩がいます。その先輩の支援の仕方がとても丁寧で、目指すべき姿が近くにあることが、今の自分のモチベーションにつながっていると思う。

久　慈：それぞれのライフステージに合った休みが必ずあるはず。休暇をしっかり取得して、法人としての実績が上げられることで、必要な休暇が整備されていくと思う。みんなが働きやすくなるような休暇の制度ができるといいね。

福祉の仕事を目指す皆さんに伝えたいこと

菅　原：私は、児童養護の知識があまりない中で入職したけれど、子どもの特性や支援方法は先輩たちが教えてくれます。支援上の悩みに対してもアドバイスをくれるので、安心して仕事ができます。

大　川：フォローしてくれる先輩がたくさんいます。大変な仕事という先入観を持たずに、就活の選択肢の一つとして、福祉の仕事を選んでほしい。

及　川：福祉の仕事と聞くとネガティブな印象を持たれることもあるけれど、どんな仕事に就いても大変さはあると思う。誰かを支える仕事だけれど、自分自身も利用者さんや一緒に働く職員に支えられて、仕事ができています。「一緒に成長して頑張っていこう」と、あまり堅苦しくない気持ちで福祉の仕事を選んでくれたらうれしいです。

久　慈：福祉の仕事は福祉の勉強をしてからじゃないとスタートできない仕事というわけではない。専門職としての知識や経験が生きる部分もあるけれど、結局は生身の自分が試され、求められる。やってみた中で、素の自分や新しい自分が感じた思い、気づきを、魅力として感じられた部分があるんじゃないかな。皆さんの素直な感情を聞くことができて良かった。このまま二次会に行きたいくらいの気持ちだね。

全　員：(笑)

施設だより

りんどう

IGR 奥中山高原駅の清掃活動
～地域とのつながりを大切に～

りんどう（一戸町）では毎年地域貢献活動の一環として、IGR 奥中山高原駅の清掃活動を行っています。今年度は新たに春と秋の 2 回、清掃活動を通じて他法人との交流をスタート！一戸町にある NPO 法人多機能型事業所きらぼしの利用者さんと一緒に清掃活動に取り組みました。皆さん初対面でしたが、自己紹介を行ったあとはすぐに意気投合！ごみを見つけた人がいたら、「この袋に入れていいよ。」と笑顔でごみ袋を広げ、協力しながら活動に参加していました。

駅の花壇は色とりどりの花が植えられており、「すごくきれいだね。春が来たんだなあって思うよ。」と季節の変化を感じている様子でした。駅から奥中山商店街周辺まで、たばこの吸い殻や紙くずなど、多くのごみを回収しました。駅は地域の顔ともいえる場所であり、清掃活動は地域全体の美化に繋がります。また、利用者さんが地域の一員として活動に参加することで、社会とのつながりを実感し、生きがいを感じるきっかけにもなります。

これからも清掃活動を通して、地域との絆を深めながら、笑顔あふれる共生社会を築いていきたいと思います。

みんなでたくさん
ゴミを集めるぞー！

発達障がい者支援センター「ウィズ」

20 年を振り返って

平成 17 年 12 月 1 日に開所式を行った岩手県発達障がい者支援センター「ウィズ」は、みたけの園・みたけ学園（滝沢村、当時）時代、県立療育センター（盛岡市）時代を経て、矢巾町に移転した県立療育センターで 20 年目を迎えました。

事業内容は開所当時から「相談支援」、「発達支援」、「就労支援」、「普及啓発・研修」の 4 つを柱としています。以前は「直接相談」が中心だったものが、「身近な地域で相談や支援が受けられるように、市町村や機関への間接支援」を目指すように変わってきています。

平成 18 年度の相談は実人数 136 人、延件数 481 件でしたが、令和 6 年度は実人数 820 人、延件数 3,840 件でした。

平成 18 年度には 0 件だった機関コンサルテーションも、令和6年度には62件行いました。

県内全域を対象とする専門機関として、強度行動障がい、触法、不登校やひきこもり等の困難ケースへの対応や、地域の支援機関の人材育成などを行うことで、少しでも発達障がいの方やそのご家族が安心して生活できる環境を目指し、多くの皆さまと連携しながら進んでいきたいと思っています。

研修会の様子

いわて子どもの森

来館者 400 万人達成のご報告と感謝

「いわて子どもの森」（一戸町）は、平成 15 年のこどもの日に、県内初の県立大型児童館として奥中山の地に開館しました。開館以来、こどもたち自身の自発性や主体性を尊重しながら運営を続けています。遊ぶ内容を選ぶのも、五感で感じて行動するのもこどもたち一人ひとり。私たちスタッフは、その「やってみたい」という気持ちを変わらずお手伝いしてきました。

こどもたちと一緒に
400 万人達成をお祝い！

館内や屋外で繰り広げられる様々なイベントやワークショップ、時には泥まみれ、雪まみれになって楽しむ四季折々の自然の醍醐味は、こどもたちだけでなく、おとなの方にも楽しい時間を提供できたと確信しています。

そして、開館から積み重ねた来館者数は、昨年 3 月末に 400 万人を超えました。開館当時に遊んでいたこどもたちが親となり、今度は自分のこどもを連れて遊びに来てくださる。これはまさに、皆様に育てていただいた 400 万人達成だと思っています。

これからも「いわて子どもの森」は、こどもたち一人ひとりに寄り添い、良質な遊びを提供してまいります。引き続きご利用いただきますようお願い申し上げます。

館長から感謝状と
記念品を贈呈しました。

岩手県立視聴覚障がい者情報センター

これってな～に？ もやもやスッキリ

岩手県では令和 6 年 4 月 1 日に「手話言語条例」が施行されました。さらに、国においても「手話施策推進法」が今年 6 月 25 日から施行され、「手話は言語」と認められる時代がやってきました。

当センターでは、聴覚障がい者向けに手話による撮影・字幕挿入した YouTube 動画を公開しています。平成 24 年 1 月から開始した「ぷちたペビデオミニニュース」に加え、令和 5 年 2 月からは「これってな～に？ もやもやスッキリ」をスタート。近頃よく聞く新しい言葉や事柄について、手話と字幕で紹介しています。

もやもやスッキリ
「自転車の違反行為」

3 年目となる今年は、一般社団法人岩手県聴覚障害者協会青年部にもご協力いただき、YouTube の登録者数も 700 人を超えました。現在は偶数月に動画を公開しています。「自転車の違反行為」「デフリンピック」「風呂キャンセル界隈」「推し活」「平成レトロ」など、手話初心者でも楽しんで見ていただける内容になっています。

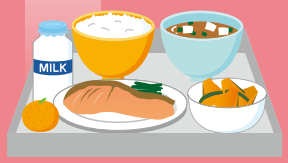
当センターの公式 YouTube チャンネルで公開中！
(https://www.youtube.com/iwateshityoukaku)
ぜひチャンネル登録をしてご覧ください。

ＹｏｕＴｕｂｅ
動画の撮影風景

給食でオモイをつなぐ、チイキとミライ

～「いわて地産地消給食実施事業所」認定～

中山の園の栄養士にインタビュー



●中山の園（一戸町）では、農産物や食文化を活かした「地産地消」の給食づくりが評価され、このたび県から「いわて地産地消給食実施事業所」の認定を受けました。給食を通じて地域や利用者の方々をつなぐ取組について、管理栄養士の猪川拓さんと栄養士の江川明香さんにお話を伺いました。

Q 地産地消を意識するようになったきっかけは？

猪川：中山の園の給食には、地域の商店から納入された地元食材が多く使われています。利用者さんに食事を通して、地域とのつながりを感じてもらいたいと考えました。

地産地消交付式で認定証をいただきました。

Q 地産地消を取り入れた給食の具体的な取組を教えてください。

江川：献立一覧表に地産地消メニューの日や使用している県産食材を記載し、掲示することで利用者さんへ伝えています。また、献立はホームページに掲載し、ご家族や地域の方々にも広く知ってもらうことで、新鮮で安全な食材の使用と共に県産食材のアピールにもなります。

猪川管理栄養士(左)、江川栄養士(右)

Q 給食づくりの中で一番大事にしていることは何ですか。

江川：味はもちろんですが彩りにも注意しています。人は目の前に置かれた食べ物について、視覚や嗅覚から得た情報を瞬時に判断し、口に運んでいると言われます。醤油や味噌がベースの味付けは日本人好みの家庭的な味に仕上がりますが、見た目が単調にならないよう、緑黄色野菜を取り入れることで彩り良く、栄養価も上がり、食欲増進にも繋がるので意識して使っています。

彩り豊かで
味も見た目も最高！

Q 地産地消の給食を通じて、伝えたいことは何ですか。

猪川：食べることの積み重ねは、心も身体もいきいきと健やかにしてくれます。新鮮な食材を食べることは心身に伝わること、積み重なっていくことを伝えていきたいです。

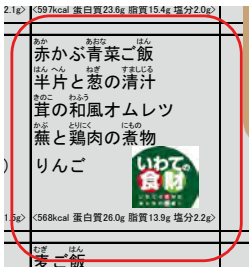
Q 中山の園で給食づくりに携わってきた中で、感じることは。

猪川：幅広い年齢層で食数が多く、多様な食種を考慮し、十分な栄養量の献立を作成することは、多くの制限があり簡単ではありません。利用者さんの希望に沿った食事を提供し、感謝の言葉をいただいた時、やりがいを感じます。

Q 今後取り組んでいきたいことは。

江川：地元で採れる新鮮な野菜をもっと身近に感じてもらえるような、地産地消イベントを栄養士主催で行いたいです。

県産食材を活かした
栄養たっぷりのメニュー



献立一覧表(一部抜粋)

シリーズ

時の足跡

～10年を振り返って～

入職から10年を迎えたお二人の方に、これまでの仕事や思い出に残っていること、後輩職員へのメッセージなどをお聞きしました。

①これまでのキャリアと現在のお仕事について
②10年を振り返り、一番思い出に残っていること
③おすすめのリフレッシュ方法
④後輩職員さんへのエール

生活介護事業所「ジョバンニ」
生活支援員　**平野ゆき子**さん

①これまでは救護施設「好地荘」、県立視聴覚障がい者情報センター、事務局人財マネジメント課で業務に当たりました。現在は生活介護事業所「ジョバンニ」で外歩行などの健康活動、レクリエーションや創作活動など、様々な活動を提供しながら利用者様の地域生活を支援しています。
また、育児休業を経て復職した後は、短時間勤務や特別休暇等の制度のおかげで、仕事と育児の両立ができています。

②視聴覚障がい者情報センターでの点字図書製作の経験が印象に残っています。点字の読み書きから指導していただき、自分が携わり完成した図書が次第に増えていくことは、達成感ややりがいを感じました。その一方で、全国で利用されることへの責任も強く感じ、周りの職員のようにスキルを上げたいと、自分なりに努力しながら業務に当たったことを覚えています。職員やボランティアの方々など、多くの皆様に支えていただいたことに大変感謝しています。

③あったかいカフェオレを飲んで、ほっと一息つく。

④ここで得る経験が素敵な未来につながると思います。無理をせず、自分のペースで仕事を楽しんで下さい。皆さんの健康と笑顔が一番大切です。

紙芝居の読み聞かせをする平野さん（左）

音楽活動で木琴を鳴らします

岩手県立療育センター診療部
作業療法士　**村松　海輝**さん

①盛岡市にある総合病院を経て、当センターに入職し、診療部訓練科で作業療法士として勤務しています。作業療法について簡単に触れたいと思います。人間の行う作業は「遊び」「日常生活課題」「仕事」の3つに分けることができるとされており、この3つの作業を主に作業療法士は治療に用います。その中で子どもの作業療法は「遊び」を用いて治療し、お子さんの「できた」を増やすお手伝いをしています。

②これまで沢山のお子さんたちや保護者様（支援者様）に出会いました。そのため、振り返ってみると一人一人の様々なエピソードが蘇ってきます。その中でも一番の思い出は入職した初日です。私の弟は生まれつき耳が聞こえず、重度の知的障害があるため、幼い頃から当センターに通っていました。そのことがきっかけとなり、作業療法士になったためです。

③仕事のことを忘れて、好きな人たちと好きなお酒を飲むことです。

④お子さんや保護者様の人生にとって私たちの関わりは一瞬であり、作業療法士としての関わりだけでお子さんは変わるわけではないです。しかし、目の前にいるお子さんに丁寧に関わっていくことで、きっかけや影響を与える可能性は十分にあると思います。目の前にいるお子さんにとっては、たった一人の作業療法士であり、経験年数や立場などは関係ないです。今後もヨコナラビの関係で切磋琢磨していきましょう！！

作業療法の様子

一緒に働く仲間たちと

岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

KADA_RTO

第33回岩手県障がい者文化芸術祭

11月13日（木）から12月7日（日）まで、ふれあいランド岩手を会場に、第33回岩手県障がい者文化芸術祭を開催しました。

応募作品展は、過去最多となる373点もの応募があり、絵画、書道、写真、工芸、文芸すべての作品が会場一面を彩りました。一つひとつの作品から、作者の自由な発想と豊かな感性があふれていました。

また、12月6日（土）のふれあい音楽祭2025にも過去最多、21団体の出演がありました。太鼓やギター、ドラムなどの楽器演奏の他、ダンス、ゴスペル、バンド演奏など、個性豊かで力強いパフォーマンスを披露していただきました。

出展・出演いただいたみなさまのおかげで、誰もが自分らしく輝いた素晴らしい芸術祭となりました。心より感謝申し上げます。

なお、音楽祭の様子や応募作品展の入賞作品については、かだあるとのインスタグラムでご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。フォローもお願いします。

応募作品展＆記念式典

ふれあい音楽祭2025

障がい者文化芸術祭応募作品展に寄せられた数々の作品の中から、かだあると職員の目を惹きつけた作品数点をご紹介します。

Gallery かだあると

「カサブランカ」
ながい

「ふたごのプーさん」
ゆっこちゃん

「ワイワイ」
えいちゃん

新採用職員紹介

岩手県立療育センター
診療放射線技師
※令和7年9月1日採用
辻村（つじむら） 秀彦（ひでひこ）
♫マイブーム♪
美味いもの巡り
健康を大切に頑張ります。

岩手県立療育センター
臨床検査技師
※令和7年9月1日採用
菅原（すがわら） 有伽理（ゆかり）
♫マイブーム♪
山に登ること
笑顔を大切に日々の仕事を頑張ります。

岩手県立療育センター
看護師
※令和7年10月1日採用
髙橋（たかはし） 尚（なお）
♫マイブーム♪
美味しい物を食べる。
前向きに一生懸命頑張ります。

岩手県立療育センター
理学療法士
※令和7年11月4日採用
髙橋（たかはし） ひかり
♫マイブーム♪
音楽鑑賞
様々な経験を通して、成長したいです。

岩手県立療育センター
看護師
※令和7年12月1日採用
澤口（さわぐち） 美優（みゆ）
♫マイブーム♪
読書
一生懸命努めます。よろしくお願いします。

発行／社会福祉法人岩手県社会福祉事業団 〒020-0114 盛岡市高松三丁目7-33
電話 019-662-6851 FAX 019-662-8044
URL http://www.iwate-fukushi.or.jp E-mail fukushi-j@iwate-fukushi.or.jp